

NGO-労働組合同際協働フォーラム 2016/2017 年活動報告

(2016年9月～2017年8月)

はじめに

本フォーラムは、NGO と労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals (SDGs)」が掲げている、貧困、人権、平和、環境、ジェンダーセンシティブ・ワークの促進、不平等・格差是正、持続可能な生産・消費などの地球規模課題の解決に寄与し、公正ですべての人々の可能性を開くことができるグローバル社会の形成と市民社会の強化を目的とし、2004年9月に発足した。

設立13年度目にあたる2016/2017年は、NGO16団体及び労働組合14団体が参加して活動を行った。そのうちNGO8団体、労働組合8団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで、グループ活動とタスクチーム活動を継続した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「事業別タスクチーム活動」「課題別グループ活動」「事務局体制」「フォーラム会員団体一覧」について報告する。

I. フォーラム全体の活動

1. 合同企画委員会

第76回～第79回まで計4回(10/26、2/24、4/13、8/24開催)の合同企画委員会を開催し、本フォーラムの活動方針、活動計画・予算、活動報告・決算等についての協議と承認を行った。

2. 全体会の開催

参加NGOも含む全メンバーを対象とした全体会を2015年10月26日に、合同企画委員会と兼ねるかたちで開催した。

3. 広報 メールマガジン発行

昨年度に引き続き、メールマガジンの発行を月1回行った。フォーラムとしての取組みを定期的に報告した他、フォーラムメンバーである各団体のイベントやキャンペーン情報の掲載など、情報発信の場として活用することができた。下記ホームページに、メールマガジンの登録フォームを設置している。2017年8月末時点の登録者数は283名。

- ・連合：開発協力活動(NGOとの協働)のページ
<http://www.jtuc-rengo.or.jp/kokusai/kaihatsukyoryoku/index.html>
- ・JANIC：NGO-労働組合同際協働フォーラムのページ
<http://www.janic.org/activ/ngounderstand/unionforum/index.php>

II. 事業別タスクチームの活動

1. SDGs 推進・シンポジウム開催タスクチーム

1) 目的

NGO、労働組合をはじめ社会全体における SDGs の認知度と支持率を高めることにより、SDGs の推進につなげることを目的とする。

2) タスクチームについて

・各課題別グループと事務局から NGO と労働組合それぞれメンバーを選出してタスクチームを形成した。詳細メンバーは以下の通り：

日教組／中善寺、IUF-JCC／中田、基幹労連／吉田、連合神奈川／金井、連合／鈴木・佐々木、ACE／山下、アフリカ日本協議会／稲場・関澤、ジョイセフ／佐藤、ACC21／伊藤、BHN テレコム／富野・高橋、JANIC／松尾・井端

・会合回数：5回（2017年1月～6月）

3) 活動実績

タスクチームの目的に資する以下のイベントへ協力をするとともに、SDGs をテーマにしたシンポジウムを開催した。

①イベント協力

・10月7日に連合が主催した「ディーセント・ワーク世界行動デー」における品川駅周辺での街宣行動に協力し、配布する SDGs ツールの制作および当日の配布活動に参加した。

・メーデー中央大会において、出展団体へ働きかけて各ブースの組織看板に関連するゴールマールを掲示していただくとともに、来場者向けチラシ（内容：SDGs 普及啓発と本フォーラム概要）を作成し、各ブースへ設置していただき、参加者へ広く配布した。

②シンポジウム主催

以下の内容のシンポジウムを開催し、「SDGs」についての理解を深めるとともに、本フォーラムの活動を効果的に広報し、出会いの場を提供することで、新たなメンバーの獲得を目指した。

- ・ シンポジウム名：「持続可能な社会を目指して－SDGs×私達にできること－」
- ・ 開催日時：2017年7月26日（水）13時00分～16時00分
- ・ 会場：全電通労働会館 多目的ホール
- ・ 実績：参加者数：101名（関係者含む）、NGO 活動紹介デスク参加団体8団体
- ・ プログラム
 - ◇ 開会挨拶
若林秀樹（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）事務局長
 - ◇ 基調講演 「SDGs って何？」
池上清子氏（公財）プラン・インターナショナル・ジャパン 理事長 /国連人口基金東京事務所 所長代行
 - ◇ 「SDGs ワークショップ」
SDGs に関するアニメーションや動画映像を見ながら、「いま何ができるのか」を考え、共有するワークショップを行った。
全体ファシリテーター：長島美紀氏（一社）SDGs 市民社会ネットワーク（SDGs ジャパン）理事 /（特活）Malaria No More Japan 理事
 - ◇ パネルディスカッション

『誰一人取り残さない』SDGs 実現のためのパートナーシップのあり方

パネリスト：

- ・横地晃氏 外務省 国際協力局 地球規模課題総括課長
- ・金田晃一氏 ANA ホールディングス（株）コーポレートブランド・CSR 推進部 グローバル CSR ヘッド
- ・金井克之氏 日本労働組合総連合会 神奈川県連合会 副事務局長
- ・黒田かをり氏 （一財）CSO ネットワーク 事務局長・理事

ファシリテーター：

- ・稲場雅紀氏 （一社）SDGs 市民社会ネットワーク（SDGs ジャパン）代表理事 / （特活）アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター

◇ フォーラムへの参加の呼びかけ、閉会挨拶：

- 鈴木宏二 日本労働組合総連合会 総合国際局 国際局長

4) 成果と課題

・イベント協力活動では、特にメーデーにおいて、出展団体からの協力を得ることで、広く来場者へSDGs および本フォーラムの周知を図ることができた。

・シンポジウムの開催では、SDGs の概要をしてもらふこと、また参加型のワークショップで地球規模課題を自分ごととしてとらえてもらふこと、そして NGO と労組、その他セクターとの協働のきっかけづくりができたと考えている。参加者からのアンケートでは、シンポジウム全体を通して約79%が「有意義だった」と回答し、特にワークショップは94%が「有意義だった」とし評価が高かった。新たなメンバー獲得に関しては、アンケートにおいて NGO と労組それぞれ1団体ずつがフォーラム参加に興味を示しており、事務局中心でフォローしていく。

・次年度は、イベントへの協力についてはある程度目標を定めて能動的にイベントを見つけ協力提案を行っていくこと、またシンポジウムについては早期の日程決定と会場確保、そして多様な参加者層へ対応する（もしくは対象者を絞った）テーマと内容の検討が課題といえる。

Ⅲ. 課題別グループ活動

1. 児童労働グループ

1) グループの基本目標

児童労働は、働く私たちがまず考えなければならない問題ということから、労働組合と NGO が協力することにより、問題解決に向かうことを基本目標とする。また児童労働についてのもうひとつのネットワークである児童労働ネットワーク（CL-Net）とも協力体制で臨んでいく。

2) 2016/2017年の目標

「持続可能な開発目標（SDGs）」には、ターゲットのひとつとして、「2025年までにすべての形態の児童労働を終息させる」ことが掲げられている。世界の児童労働者の数は1億6800万人といわれ（ILO、2013）、各国政府や国際機関、企業や市民社会の取り組みにより、世界的に児童労働者数は減少してきているが、今のままのペースでは2020年になっても1億人以上の子どもたちが厳しい状態から抜け出せないとの推移予測もあり、これまで以上に解決に向けた取り組みが加速していくことが求められている。児童労働グループでは、「児童労働は私たちが取り組むべき問題である」という認識が広がり、取り組みに参加する人が増えるよう、労働組合員や一般市民への児童労働の普及と啓発に貢献することを目指す。CL-Netが児童労働反対世界デー（6月12日）にあわせて実施するキャンペーンへの協力も継続し、連携して意識啓発を行っていく。

3) 活動実績

①組織運営・事務局

a.参加組織

- ・労働組合 7 組織
 - ✓ JAC
 - ✓ IUF-JCC
 - ✓ 自動車総連
 - ✓ JAM
 - ✓ 日教組
 - ✓ UA ゼンセン
 - ✓ 情報労連
- ・NGO5 組織
 - ✓ アムネスティ・インターナショナル日本
 - ✓ ACE <事務局>
 - ✓ 国際労働財団
 - ✓ シャンティ国際ボランティア会
 - ✓ FTCJ

b.グループ会議

以下の日程で、6回開催した。

2016年9月20日、11月2日、12月2日、2017年2月22日、4月12日、7月12日

②活動

a.イベント開催、出展

- ・連合「3.8 国際女性デー中央集会」啓発カフェ（2017年3月8日）

国際女性デー中央集会会場での啓発カフェを母子保健グループとの共催で実施した。パネル展示、グループ活動紹介ちらしの配布と児童労働についての説明を行った。109名が来場。

・第87回メーデー中央大会（2017年4月29日）

メーデー中央大会に出展し、写真パネルの展示と児童労働クイズ、缶バッジづくり、「ストップ！児童労働キャンペーン2017」のレッドカードアクションを行った。

レッドカードアクションでは、来場者にタペストリーの前で、レッドカードとメッセージいりボードを掲げ、写真を撮影し、その場で写真をプリントして持ち帰ってもらえるようにした。レッドカードを116枚配布、写真を約50枚撮影し、のべ約120名が参加した。



・労働組合定期大会

UAゼンセン定期大会（2016年9月7日-8日／ACE）、JAM定期大会（2017年8月31日／アムネスティ、ACE）に出展し、バナーの展示と児童労働についての説明、フェアトレード商品等の販売を行った。JAM定期大会では、配布資料として児童労働グループちらしを700枚配布した。

b. 展示ツールを活用した啓発

新たに展示用タペストリーとグループ活動紹介ちらしを作成。既存の展示用バナーや写真パネル等と組み合わせて、労働組合定期大会、メーデー中央集会、国際女性デーでの啓発カフェ等で、児童労働の現状と解決のために私たちにできること、児童労働グループの活動を伝えた。



c. CL-Net と共同事業

「ストップ！児童労働キャンペーン2017」の広報協力を行った。広報物としては、キャンペーンフライヤー（13,300部）とウェブサイトが制作され、キャンペーンの周知とアクションへの参加呼びかけに活用された。キャンペーンの一環で行われたレッドカードアクションには、労働組合からも多くの参加があった。

【キャンペーンの実績（2017年9月8日時点）】

キャンペーン参加団体：24 団体

レッドカード+1 アクション：写真 281 枚、参加人数 5,154 人

賛同イベント開催数：6 件

キャンペーンフライヤー配布枚数：13,236 枚

4) 成果と課題

・グループ活動紹介ちらしを作成したことで、A4 サイズ 1 枚で、児童労働の現状、何故労働組合が取り組むのか、フォーラムや当グループの活動の 3 点について伝えられるようになった。また、展示用タペストリーを制作したことで展示ツールも充実し、活用シーンに合わせてより効果的な啓発活動ができるようになった。

・これらの展示ツールを活用し、労働組合の中で「児童労働を知る」機会が増えるよう働きかけるほか、現状を知ったその先のアクションとして「児童労働は私たちが取り組むべき問題である」という認識が広がり、問題解決に向けた取り組みにつながっていくよう、施策を検討していきたい。

・参加組織の変更や担当者の交代等、参加メンバーの入れ替わりがあった。共に活動する効果を最大化するためにも、グループ内で改めて、お互いの組織について知り、学び合う機会を作っていきたい。

2. HIV/エイズ等感染症グループ

1) グループの基本目標

労働組合員や一般市民に対して、国内外の HIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う労働組合ネットワークや NGO を紹介し、その活動への支援参画を促す。

2) 2016/2017 年目標

- ・ HIV/エイズに関する問題や課題について、一般市民・労働者への普及と啓発に貢献する。
- ・ グループ参加団体が、HIV/エイズやその他感染症に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- ・ グループ参加団体がより一層 HIV/エイズ問題に関する知識を深めるため、グループ参加団体個々の持つ知見を共有し、より効果的に啓発活動を行えるよう研鑽に努める。
- ・ グループで作成した啓発プログラムメニューを使用した、ワークショップや勉強会を、積極的に実施する。

3) 活動実績

①組織運営

a.参加組織・事務局

- ・ 労働組合 3 組織
 - ✓IUF・JCC
 - ✓インダストリアル JAF
 - ✓BWI・JAC（実質参加なし）
- ・ NGO3 組織
 - ✓シェア＝国際保健協力市民の会 <グループ事務局>
 - ✓アフリカ日本協議会
 - ✓国際連帯税フォーラム

b. グループ会議

グループ会議は以下の日程で6回開催した他、メールベースでの打合せを活用した。

2016年11月21日、12月26日、2017年2月8日、4月13日、6月9日、7月25日

②活動

以下、HIV/AIDS 予防啓発イベントについて、主催、共催、協力および参加した。

a. <UNAIDS 専門家 エイズ対策と LGBT に関するセミナー>

- ・実施日：2016年12月2日
- ・場所：コミュニティセンターakta
- ・参加者：約30名
- ・内容：HIV/AIDS、LGBTのスペシャリストでありUNAIDSの上級アドバイザーであるリチャード・ブルンジンスキ氏を迎え、セミナーを開催。SDGs時代になり大きく変化する今後のエイズ対策について、NGOやコミュニティ、労働組合がどのようにして取り組むのか対話をした。

b. <ミュージカルイベント>

- ・実施日：2017年1月15日
- ・場所：スクエア荏原ひらつかホール
- ・内容：ホットジェネレーションと、NGO シェアが主催するミュージカルイベントに協力した。劇場ロビーに、専用ブースを設け、エイズに関するメッセージの入ったポケットティッシュを配布し、啓発活動を行った。また劇開始前に、アナウンスで当グループの活動紹介や目的を説明してもらった。さらに世界三大感染症（エイズ、結核、マラリア）に関するチラシを作成し、当日のプログラムにはさみこみをした。



ミュージカルのテーマは NGO シェアが保健活動に取り組む東ティモール。シェアの活動の実話を基に脚本が作られ、保健活動の様子や、結核など感染症に関する内容も盛り込まれていた。ホットジェネレーション演者は障害があるなしに関わらず、みな歌や踊りをして生き生きと演じていた。観劇に訪れた多くの人が、ミュージカルを楽しみ、また問題の根幹や自分たちにできることを深く考える機会となった。

c. <メーデー中央大会>

- ・実施日：2017年4月29日
- ・場所：代々木公園
- ・来場者：約200人
- ・内容：ポップコーン配布を通して集客を狙い、HIV関連のクイズ等を通じて基礎知識を紹介するなどして、一般の組合員や市民に対する啓発活動を行った。当日は、若者のエイズボランティアグループの HAATAS にも協力してもらい、一緒に活動を実施した。



d.<「日本の健康課題／SDGs と UHC」勉強会>

- ・実施日：2017年8月1日
- ・場所：シェア＝国際保健協力市民の会 事務所
- ・参加者：11名（NGO職員8名、労働組合1名、エイズボランティアチーム HAATAS2名）
- ・内容：浅草病院医師／シェア代表の本田徹さん、当グループメンバーの稲場雅紀さんの二人を講師に、勉強会を実施した。本田さんには、日本とタイの高齢化の課題と取り組みについて、特に日本の貧困かつ高齢化の問題を抱えている山谷の事例を中心に、説明してもらった。稲場さんの講義は SDGs の保健に関することや、UHC に関する概念を中心にお話してもらった。SDGs で目指す、貧困をなくしていく、誰一人取り残さないということを日本と途上国の両面で考えるよい機会となった。今後の当グループの活動の方向性や企画を考えるにあたり、新たな視点をもらうことができた。



4) 成果と課題

<成果>

- ・HIV／エイズ啓発の配布ツール改善：1月のミュージカルにあわせて、エイズ啓発のメッセージの入ったポケットティッシュを2000個作った。昨年度までメーデーでもコンドームを配布していたが、ティッシュにしたことで、誰にでも渡しやすい状況となった。これにより、どのイベントでも気軽に配布でき、子どもがいても問題なく受け取ってもらうことができています。
- ・HIV／エイズを含む感染症についての理解を深める場づくり：メーデーにおいては、必ずしも課題に対する認知や関心を持っていない対象に対しても、物販等をきっかけにクイズへ誘導することで、HIV／エイズの課題を伝える機会を拡大する事ができた。またミュージカルでは、エイズだけでなく、世界三大感染症についても、チラシを通して伝えることができた。

<課題>

- ・職場啓発活動としての勉強会・ワークショップ：職場への出張ワークショップの依頼を取れず、機会が得られなかったことは残念であった。積極的にこのようなプログラムがあることを、労働組合にアピールできていないことも理由の一つである。また課題認識の向上を、実際の職場等で取り組みの展開に如何につなげてもらうかが、今後の課題である。
- ・シンポジウム：毎年行ってきた大きな規模のセミナーやシンポジウムをメンバーが多忙であることから、今年度は実施することができなかった。今後は、HIV／エイズを切り口にするだけでなく、今までと違う視点から感染症を含む日本・途上国の健康問題を、労働組合や一般の方に理解していただけるような啓発活動を実施していきたい。そのために、まずはメンバー中心の勉強会を8月に実施した。このことを通して、今後につなげていきたいと考えている。

3. 母子保健グループ

1) グループの基本目標

- ① 労働組合と NGO が協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう
- ② 妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながるよう、実現可能なアクションの参画を拡大させる

2) 2016/2017年の目標

2015年をゴールとした「国連ミレニアム開発目標（MDGs）」の課題解決に向けて啓発活動を中心に行ってまいりましたが、引き続きSDGsを達成するために、母子保健の視点から課題解決に取り組む。

- ① SDGs ゴール3：あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する
- ② 母子保健は「人間の営み」の根幹に関わる永遠のテーマです。このゴールの達成のため、開発途上国の妊産婦の健康や、国内においては女性のリプロダクティブヘルスなどの課題について多くの市民、労働組合員に発信する。
- ③ 上記のための具体的な方法として、各種会議やイベント等に併せて、参加型の学習会やセミナーの実施、ブース出店、パンフレット配布などの啓発活動を実施し、更に実現可能なアクションに繋がるよう取り組む。
- ④ 連合構成組織内の認識を拡げるため、パンフレット、機関紙、ホームページなどを活用する。
- ⑤ 他のNGOや労働組合に、グループ活動への参画を呼びかけ、活動拡大を図る。

3) 活動実績

① 組織運営・事務局

a.参加組織

- ・労働組合 3組織
 - ✓電機連合
 - ✓基幹労連
 - ✓国公連合
- ・NGO 1組織
 - ✓ジョイセフ <事務局>

b.グループ会議

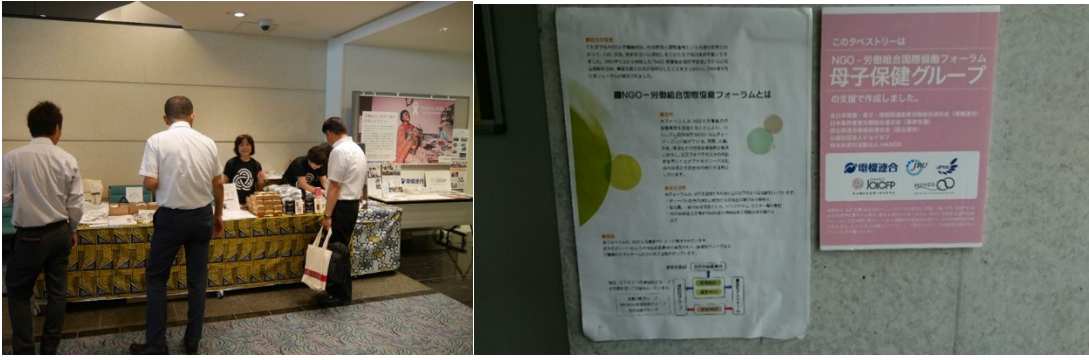
以下の日程で、3回開催した

2017年2月9日、6月12日、8月4日

2) 活動

① 啓発活動

- ・9/8、9 基幹労連 大会会場にて母子保健グループのチラシ配付
- ・9/7、8 UA ゼンセン定期大会（パシフィコ横浜）にて 展示および物販
- ・10/21 2017 連合女性中央集会（よみうりホール）でのチラシまき
- ・11/6～9 文京区カラーリボンフェスタにて（シビックホール）、タペストリー展示、チラシ配架
- ・1/23 国公連合中央委員会会場にて（ソラシティ）コーヒー試飲
- ・1/26、27 電機連合中央委員会にて（パシフィコ横浜）展示、コーヒー試飲、物販
- ・3/8 連合3.8国際女性デー中央集会にて（よみうりホール）展示・チラシ配付、カフェ（児童労働Gと共に）
- ・4/14～7/7 文京総合体育館ロビーにて、タペストリー展示
- ・7/3、4 電機連合定期大会にて（パシフィコ横浜）展示、コーヒー試飲、物販



- ② NGO-労働組合国際協働フォーラムイベント
- ・4/29 連合第 88 回メーデー中央大会参加（代々木公園）
 - ・シンポジウムタスク参加（基幹労連・ジョイセフ）
 - ・SDGs タスク参加（基幹労連）
 - ・7/26 シンポジウム（全電通会館）



- ③ 勉強会などへの参加
- ・10/19「SDGs 実施におけるジェンダー平等の推進について聞く会」参加
呼びかけ人 SDGs 市民社会ネットワーク ジェンダー分野 共同世話人
公益財団法人ジョイセフ 理事長 石井澄江／ JAWW（日本女性監視機構）代表 織田由紀子
 - ・日時：2016年10月19日（水）
第1部 16：00－17：00 内閣府との対話
第2部 17：00－18：00 外務省との対話
第3部 18：00－19：00 参加者間の交流会（*軽食・ドリンク付）
- ※母子保健 G からは、電機連合 2 名、基幹労連 1 名、ジョイセフ 1 名参加

4) 成果と課題

<成果>

- ・例年通りの啓発活動は、順調に実施できた。
- ・SDGs を学ぶ取り組みがスタートできた、今後の計画に向けた活動となった。

<課題>

- ・日程調整が難しい→次年度はグループ会議を定例化する。

Ⅲ. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会（連合）、NGO 側事務局として（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）が共同で事務局を担った。

Ⅳ. フォーラム会員団体一覧（2017年8月31日現在）

次頁は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた（次頁）。

NGO-労働組合国際協働フォーラム 2016/2017年参加団体一覧

2016年10月12日現在

■労組側(14組織)

			連絡窓口			
NO	合同企画 委員(計8)	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS等 感染症 グループ	母子保健 グループ	SDGs推進・ シンポジウム 開催タスク チーム
1		インダストリアル日本化学エネルギー 労働組合協議会(インダストリアル・JAF)		○		
2	○	基幹労連			○	○
3		国際建設林業労働組合連盟 BWI日本加盟組合協議会(JAC)	○	○		
4	○	国際食品労連日本加盟労組連絡協議会 (IUF-JCC)	○	○		○
5	○	国公連合			○	
6		自治労				
7	○	自動車総連	○			
8	○	JAM	○			
9		情報産業労働組合連合会	○			
10	○	電機連合			○	
11		日本教職員組合(日教組)	○			○
12	○	日本労働組合総連合会(連合)【事務局】				○
13	○	UAゼンセン	○			
14		日本労働組合総連合会神奈川県連合会(連合神奈川)				○

■NGO側(16組織)

NO	合同企画 委員(計8)	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS等 感染症 グループ	母子保健 グループ	SDGs推進・ シンポジウム 開催タスク チーム
1	○	(特活)アフリカ日本協議会		○		○
2	○	(公社)アムネスティ・インターナショナル日本	○			
3		(特活)アジア・コミュニティ・センター21				○
4	○	(特活)ACE	○			○
5	○	(特活)エイズ孤児支援NGO・PLAS				
6		(特活)エファジャパン				
7	○	グローバル連帯税フォーラム		○		
8	○	(特活)国際協力NGOセンター【事務局】				○
9	○	(公財)国際労働財団	○			
10		(特活)シェア＝国際保健協力市民の会		○		
11		(特活)シャブラニール＝市民による海外協力の会				
12		(公社)シャンティ国際ボランティア会	○			
13	○	(公財)ジョイセフ			○	○※
14		(特活)難民を助ける会				
15		(特活)BHNテレコム支援協議会				○※
16		(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	○			